

「知韓派」若宮啓文氏が語る日本の右傾化問題



安倍晋三首相を筆頭に、日本の政治家が右傾化を一段と強めている。第2次世界大戦の敗戦日に当たる15日、日本の閣僚の一部はA級戦犯が合祀(ごうし)されている靖国神社を参拝する予定だ。これに対する国際社会の懸念も、いつにも増して強い。シャーマン米国务次官が靖国参拝について、日本側に「慎重な対応」を求めたとする日本の報道もある。現在の日本の右傾化に対する見解を、元朝日新聞主筆の若宮啓文氏(65)に聞いた。

若宮氏は13日に韓国語で行われたインタビューで「民主主義に偏った韓日の政治家やメディアが、問題をより難しくしている。日本には『良い保守主義者』がはるかに多い。憲法改正による再武装(再軍備)は彼らが望んでいることではない」と述べた。また「韓国政府は独島(日本名:竹島)領有権や(旧日本軍に強制動員された)慰安婦の問題に対し、より冷静なアプローチが求められる」と助言した。

若宮氏は今月3月に韓国を訪れ、ソウルの新村で下宿生活をしながら教授(東西大学)、研究員(ソウル大日本研究所)、学生(西江大韓国語教育院)の3役をこなしている。以下は若宮氏との一問一答。

—安倍首相が平和憲法の改正と再武装を強行するとの懸念が強い。

「日本国民が安倍首相を支持する最大の理由はアベノミクス、すなわち経済復興に対する期待のためだ。再武装や右傾化のためではない。集団的自衛権の行使を可能にするため憲法第9条を改正すべきだと考えている国民は30%ほどだ」

—「ナチスの憲法改正の手口に学んだら」という麻生太郎・副総理兼財務相の発言、「戦時には慰安婦の動員は一般的だった」という橋下徹・日本維新の会共同代表(大阪市長)の発言をどう評価するか。

「不適切で非常識な発言だった。安倍首相は(1995年に当時の村山富市首相が日本の植民地支配を謝罪した)『村山談話』を受け継いでいくと国会で表明した。これは現政権の公式な立場であり、韓国政府は安倍首相のこの発言を認めるべきだ。国同士の関係は個人同士の関係をさらに広げたもの。相手の発言を認め、体面やプライドを立ててやる方が有利だ」

—2005年に署名コラムで「いっそ日本が竹島を譲ってしまい、韓国がこの英断をたたえ、島を『友情島』と呼ぶのはどうか」と助言した。1995年にはサッカー・ワールドカップ(W杯)の韓日共催を最初に提案した。

「韓国が独島を実効支配している中、韓国は日本の外務省発表や防衛白書が出るたびにすぐさま反応する必要はない。日本からすると『過去の出来事について十分に謝罪したのに、どうして同じ問題で刺激してくるのか』と反発を抱くことになり、これが韓日関係悪化の一因だ」

—「知韓派」「親韓派」と呼ばれているが。

「自分が知韓派なのかは疑問だ。韓国は私が思っていたのと違う面がまだ多い。日本の嫌韓派や極右派は私を親韓派だと中傷する。私は韓日関係を重視する『韓日関係派』だ。日本の立場も説明すべきだという責任を感じている。韓国または日本政府の一方の立場に百パーセント同意しているわけではない」

—現在の韓日関係を「反動の時代」と規定した。

「韓国の国力と韓流が強くなり、その反作用として嫌韓論も強まった。現在は最悪の状況だが今後改善するだろうし、過剰に心配する必要はない」

—安倍政権へのアドバイスは。

「日本は韓国や中国など周辺国との友好関係なくしては生きていけない。特に韓国は自由、民主主義、人権の価値を共有する隣国。韓国との関係をまず改善すべきだと言いたい」

朴瑛錫(パク・ヨンソク)記者

朝鮮日報／朝鮮日報日本語版

<記事、写真、画像の無断転載を禁じます。 Copyright (c) The Chosun Ilbo & Chosunonline.com>
 関連フォト1 / 1

